

はじめまして、越谷市に在住の加藤万季と申します。小学校6年生と2年生、11ヶ月の3人の娘がおります。今日市長さんに手紙を差し上げることにしたのは、越谷市の小学校、保育園、幼稚園、公園、公共屋外施設の地面の放射線量の計測をお願いしたいからです。

そう思う根拠を、順を追ってご説明させていただきます。

お忙しい時間を使っていただき申し訳ありませんが、どうぞおつきあいくださいますようお願いいたします。

3月11日の大震災、それに続く原子力発電所での事故、被災地ではまだまだ混乱とライフラインを脅かされた方々がいることに、胸を痛めています。

ここ越谷は、地震の影響はさほどなく、現在、生活に支障はないように見えますが

一時期は環境中の放射線量も通常の倍以上あり、水道水にも乳幼児に飲ませるのには躊躇する量の放射性ヨウ素が検出されていました。

現在、厚生労働省は「100 Bq/kg を超えるものは、乳児用調製粉乳及び直接飲用に供する乳に使用しないよう指導すること。」としておりますが、

3月17日以前は大人でも10ベクレルが基準値でした。(以下ご参照ください)

●世界の基準値

WHO基準 1ベクレル(Bq/L)

ドイツガス水道協会 0.5ベクレル(Bq/L)

アメリカの法令基準 0.111ベクレル(Bq/L)

●3/17までの日本の基準値

ヨウ素I-131 10ベクレル(Bq/L)

セシウムCs-137 10ベクレル(Bq/L)

下記出典。203-204ページ、表9-3参照

<http://bit.ly/f5TnyP>

日本には放射能に関する飲料水基準は無く
世界保健機関(WHO)基準相当を守っていました。
飲料水中の放射性核種のガイダンスレベル(WHO)です。

しかもセシウム-134とセシウム-137の合計値が370Bq/kg。
基準値を超える物は輸入させないというものでした。

愛知県衛生研究所 2006/04/28

<http://bit.ly/gqTojx>

食品中の放射能濃度の暫定限度は、日本の国民一人一日当たりの
輸入食品の摂取量を考慮した上で、放射線防護の国際専門機関である
国際放射線防護委員会(ICRP)の1990年勧告
「公衆の被ばく線量限度は1年間に1ミリシーベルト」
も十分に下回る量として設定されています。

●3/17以降・現在の日本の暫定基準値

・ヨウ素(I-131) 131 300ベクレル(Bq/L)

飲料水 300 Bq/kg

牛乳・乳製品 300 Bq/kg

野菜類 (根菜、芋類を除く。) 2,000 Bq/kg

・セシウム(Cs-137) 137 200ベクレル(Bq/L)

飲料水 200 Bq/kg

牛乳・乳製品 200 Bq/kg

野菜類 500 Bq/kg

穀類 500 Bq/kg

肉・卵・魚・その他 500 Bq/kg

一般公衆が1年間にさらされてよい人工放射線の限度(ICRP国際放射線防護委員会の勧告)は1mSv(ミリシーベルト)と決められています。

<http://bit.ly/hgwKt4>

現在政府が発表している100ミリシーベルトは人間の健康に確率的影響が出ると証明されている放射線量の最低値です。

放射線業務従事者(妊娠可能な女子を除く)が1年間にさらされてよい放射線の限度でも50ミリシーベルト、

この数字を累積被曝した原発作業者が白血病になって労災認定がおりています。

オーストラリアの医師、ティルマン・ラフ氏の論説

米国国立科学アカデミーBEIR VII報告書によれば、1mSvの放射線(被曝)は固形癌(白血病以外の癌)については約1万人に1人、

白血病では約10万人に1人、癌による死亡では17500人に1人のリスク上昇をもたらすものとみられる。

だがもっとも見落としてならない点は、全ての人間が同じレベルのリスクに晒されるわけではないということだ。

放射線による癌のリスクは幼児(一歳未満)の場合、成人の3-4倍になる。また、女の幼児は男の幼児に比べ、2倍感受性が強い。

女性全体の放射線被曝による癌のリスクは、男性に比べ4割高い。また放射線に対して誰よりも敏感なのは、母親の子宮にいる胎児である。

<http://bit.ly/kqxWzp>

(子育て支援と医療問題に取り組んでこられた市長さんでしたら、私などに言われなくともご存知のことも多いかと思われませんが

私の不安を説明するのに必要かと思しますのでご容赦ください。)

この1ミリシーベルトと言うのは、外部被曝と内部被曝を合計しての数字です。

人間は放射線のある空間に存在していれば、まず外からの放射線を受けますが放射性物質を吸い込むことにより、呼吸からも内部被曝します。

そして水が汚染されていれば水から、食物が汚染されていれば食物からも内部被曝します。

現在政府は内部被曝については一切説明をしていないように見受けられますが

(もし勉強不足でしたらすみません)
個々の数値はただちに健康に影響はないレベルでも
すべてが累積すると問題があるのではないかとされます。

中部大学教授(総合工学研究所所属)武田邦彦先生のブログで判りやすく説明しています
<http://bit.ly/h90IVo>

ここまで、放射線に対する許容値というものをご説明させていただきました。
そこでようやく本題です。

私が現在最も心配しているのは、空間放射線量は確かに安心できるレベルにはなってきたけれども
3月中に降下してきた放射性物質が、地面に累積しているのではないかと言う事です。
県に問い合わせたところ、空間放射能値を測定しているのは
さいたま市の衛生研究所と言うところで、地上18メートルの屋外だそうです。
その測定器はかなり高額で信頼できる精度のものだそうです。

【そこで検出され公表されている計測値】

○ 3月15日から31日までの空間放射線量の積算値(欠測時は推計) $39.97\mu\text{Sv}$ (0.03997mSv)
下記出典(埼玉県ホームページより)
<http://bit.ly/lnOyiY>

○ 3月18日から4月20日までの放射性降下物の積算値(MBq/km^2)
下記出典(文部科学省集計値)
<http://bit.ly/ibUyYd>

【放射性ヨウ素(I-131) / 放射性セシウム(Cs-137)】
埼玉県(さいたま市) $68,574.9 \text{ MBq}/\text{km}^2$ / $3,758.7 \text{ MBq}/\text{km}^2$

単位の MBq はメガベクレルで、ベクレル(Bq)に100万倍を表すSI接頭辞メガを表すもので $\text{MBq}/(\text{km})^2 = \text{Bq}/\text{m}^2$ なので

放射性セシウム $3,758.7 \text{ MBq}/\text{km}^2$ は $3758.7 \text{ Bq}/\text{m}^2$ になります。

県の発表を私は信頼しておりますが、実際人間が生活するのは地上です。
(山形県では地上50センチと1メートルで計測公表しています。)
<http://bit.ly/fC1oHr>

そして子どもたちが活動するのは、大人よりも低い地点です。
降下物は下に積もり、吹きだまりではたまっていくそうです。

校庭では砂埃もすごいし、子どもたちは無頓着で吸い込んでいます。
乳幼児にいたっては、公園でハイハイだってするし、地面のものでも平気で口にします。
またホットスポットと呼ばれる、点で放射性物質が大量に降下している場所があるようです。

(衆議院決算行政監視委員会にて、村上誠一郎代議士が都内のホットスポットについて説明しています。
ぜひご覧ください

4月27日の映像<http://bit.ly/m8Lquf>)

私はまず、子どもたちの通う小学校の校長先生に、市役所で測定器をお借りして計測できないかとお願いました。

先生はとても素晴らしい方で、私の話をきちんと聞いてくださいましたが

自分の小学校1校だけの測定は、自分の裁量ではできないとおっしゃいました。

そこで私は市役所の環境課の方に電話で相談しましたが、個人的な計器の貸し出しは規則でできないと言われました。

それではどうしたらいいのだろうと思い悩み、こうして市長さんに手紙を出すことにしたのです。

先日栃木県那須町では、町独自で測定をすると聞き、素晴らしい決断だと思いました。

「東京電力福島第1原発事故を受け、那須町は子供たちの安全を確保しようと独自に放射線量を測定する線量計を購入し、町内の保育園や小中学校で定期的に測定を開始する。高久勝町長が22日、明らかにした。 <http://bit.ly/eBfcqy>」

子どもたちが活動する場所、市民が憩う公園などの安全が確認されれば

どれだけの母親が安心するでしょうか。

そしてもしも高い数値が公園の芝や、砂場から検出されたら

そこだけ除染、芝を刈るなどの対策をしていただきたいのです。

(前述の中部大学教授(総合工学研究所所属)武田邦彦先生のブログで方法を説明しています)

<http://bit.ly/fxyk8g>

<http://bit.ly/hdvbPM>

越谷には県民健康福祉村をはじめとする、大きな公園があります。

また川沿いの土手で散歩する人もたくさんいます。

特に心配なのは、小さい子どもたちが活動する校庭、園庭、公園です。

長い目で見れば、今すぐ健康に影響はないと言われる低線量の放射線であっても、

子どもたちの免疫は下がり、病院に通う母親は増えて行くと思われれます。

(すでに今年4月にもかかわらず小学校でインフルエンザ、保育園でウイルス性胃腸炎が流行しています。)

「チェルノブイリではすべての器官が放射能の悪影響を受けたという

ジャネット・シェルマン博士の研究

<http://bit.ly/dTfUtc>」

大変ありがたいことに越谷市は、市長さんの尽力もあり、こども医療費支給制度があり、中学生までは医療費が市から支給されますが

この先、子どもたちに病気が増えていけば、医療費も増大するのではないかと危惧されます。

どうか、子どもたちに安全な未来を作ってあげるためにも

子どもたちの活動場所(地面)を中心に、放射線量の測定を切にお願いいたします。

今後も越谷が、市民が全国に誇れる安心安全な、環境のよい街であるように、市長さんが尽力して下さることを願っております。

大変長くなり、途中読みづらいところもあったでしょうが、最後までお読みいただきありがとうございました。

平成23年 4月30日 加藤万季